

(NPO) 21世紀協会

# 事業計画書

2004年(平成16年)度

はじめに	2
事業地と受益者.....	2
今期の新事業	3
基本事業	4
1. 就学支援事業 .....	4
2. マンニャン村コミュニティー開発事業 .....	6
3. マンニャン人間開発センター .....	10
4. 各種事業の運営方法について .....	12

## はじめに

先の1月、岡山大学から岸田芳朗農学博士を招聘し、サンタクルス郡との共催で合鴨農法についてのセミナーを開催した。先住民族マンニャンを含め、サンタクルス郡内にあるほぼすべてのバランガイから参加者を集め、新しい農法に対して大きな関心と期待を盛り上げて幕を閉じた。3月上旬現在、合鴨を放ったデモ・ファームは見事に成長を続けているが、今回のセミナーはさまざまな意味で協会の転換期を象徴している。

一つ目は受益者の拡大である。これまである特定の集落に絞ってきた事業も、事業の成果に伴いニーズが拡大し、一点集中から脱皮、線的、面的に拡大する必要にせまられてきた。一つか二つのマンニャン村に限られていたサービスは、今や AALPP(アムナイ川流域識字教育推進事業)に見るように面的に、さらにセミナーがそうだったように少数民族のみならず、地域住民すべてを対象とする事業に発展している。

二つ目は協会と諸機関あるいは地域住民とのより密接なネットワークづくりの必要性の拡大である。合鴨農法のように高い専門性が必要な事業では、国内外の研究機関との協力は必至であり、また、その普及には地方行政当局ともより密接な協力関係を作らなければならない。

三つ目は協会がビジョンを提示することによって(アドボカシー)、一つ目の受益者と二つ目のネットワークを結びつけ、ひとつの目標に向かってさまざまなイニシアティブ、エンパワーメントを行う必要がますます大きくなってきたことである。合鴨農法一つをとってみても、それは単なる農業技術の移植ではなく、パラダイム・シフトの可能性を秘めている。

## 事業地と受益者

就学支援事業、中でも奨学金事業はこれまでも広くサンタクルス郡全体に門戸を開いてきたが、農業指導を含め協会事業の恩恵を受けてきたマンニャン族は、パイロット事業地のごく一部に限られてきた。最近の地域全体からの強いニーズに応えるため、これまでに蓄積された協会の持つリソース(人材、技術、経験、信頼)をフルに活かして、事業地を積極的に拡大する必要がある。また、半遊牧生活をしてきたマンニャン族にとっては、一つの集落に集中した開発よりも、一地域を包括的に開発したほうが高い効果が見込まれる場合も多い。

### 事業内容別優先地域

事業内容	優先地域及び人	準優先地域及び人
------	---------	----------

奨学金事業	パクパク村、カンルアン村、カラミンタオ村	ランラナン村、ソアカン村、カマンブガン村、ウラグアン村、シリ村
識字教育	パクパク村、カンルアン村、ランラナン村、ソアカン村、カマンブガン村	アムナイ川流域
農業開発	パクパク村、カンルアン村、ランラナン村、ソアカン村、カマンブガン村	
衛生環境整備	パクパク村、カンルアン村、ランラナン村、ソアカン村、カマンブガン村	カラミンタオ村、ウラグアン村、シリ村
職業訓練	ハイスクール卒業元協会奨学生	元奨学生、初等教育以上修了マンニャン子弟

## 今期の新事業

### ➤ AALPP（アムナイ川流域識字教育推進事業）

協会事務所、奨学生寮を兼ねたマンニャン人間開発センターを建設し、識字教育、特にアムナイ川流域にある5村での実施における本拠地とする。センターでは識字教育担当者養成、センター建設自体を含む大工職人訓練などさまざまな人材養成所として機能する。今期はセンター内に女子寮、事務所の建設、パクパク村に加えてランラナン村、カンルアン村（予定地）にて識字教室の開講。

### ➤ 淡水魚養殖訓練（パーマカルチャー・デモファーム）

パーマカルチャー思想に基づき、協会実験農場内にすでに掘削された養殖池を改良し、ティラピアやエビの養殖を行う。他の訓練と同じように、養殖技術に特化することなく、環境への配慮、エコロジー、経営といったことについても学習項目とする。

### ➤ 結核撲滅キャンペーン

結核はマンニャン族社会にとってマラリア、栄養失調とともに深刻な問題である。過去一年、事業地内だけでも数人の死亡者を出し、現在治療中の患者（協会モニタリング）だけでも10名を数える。結核撲滅には、医療サービスへのアクセス簡便化、衛生環境の整備、栄養改善（食料増産）、基礎教育の普及などなど、総合的包括的対策が必要である。地域の公共医療サービスと緊密な協力関係を作りながら、また、

協会で進める識字教育事業などと連携しながら、撲滅への第一歩を踏み出す。

## 基本事業

基本事業は、先に述べた新規事業をかたちづくり、支える三つの事業からなる。就学促進事業は、公立及び非公式の学校への就学支援をとおして、文字通り教育をマンニャン社会に浸透されることが目的であり、マンニャン村コミュニティ開発事業は、教育を普及させるための土台をマンニャン族の集落に築き上げること、具体的には農業を普及させることにより「飢えからの解放」を目指し、かつ「新しいコミュニティ作り」をめざしている。マンニャン族人間開発センターは、先の二つの事業を有機的に結びつけ、より効果的に二つの事業が地域に普及するための人材を育成する場である。ここでは、就学促進事業の受益者である元奨学生を中心に各種職業訓練を行い、マンニャン族集落に還元できる能力を養成し、また、日本人インターン生を現地に迎え、ボランティアスタッフとして幅広く協会事業に取り組みながら、将来の開発専門家を育成する場である。

### 1. 就学支援事業

就学支援事業は、公立学校に物理的に通学できないマンニャン族の子どもたちの中から特に意欲のある子弟を選び、サンタクルス郡にある協会奨学生寮で共同生活をさせながら町の公立学校に就学させる事業と、学校の無いマンニャン集落で協会独自に進める識字教育学校経営の二つからなる。

#### 1-1 就学支援事業（奨学金事業）

今期はAALPP(アムナイ川流域識字教育推進事業)の立ち上げに伴い、アムナイ川流域の村から積極的に児童を受け入れる予定である。

#### 奨学生内訳と予算

	小学校	ハイスクール	大学	計
イラヤ部族	0	12	3	15
	¥0	¥240,000	¥150,000	¥390,000
アラガン部族 (内AALPP地域)	10	6	1	17
	9	2	0	11
	¥150,000	¥120,000	¥50,000	¥320,000
計	10	18	4	32

	¥150,000	¥360,000	¥200,000	¥710,000
--	----------	----------	----------	----------

### 奨学生給食費予算

	人数	月間	月数	計(ペソ)	計(円)
サンタクルス寮(就学期間)	36	520	10	187,200	¥374,400
サンタクルス寮(休暇期間)	10	760	2	15,200	¥30,400
カレッジ	4	1,660	10	66,400	¥132,800
				268,800	¥537,600

### 1-2 識字教育事業

シプヨ村(1995～1999)、パクパク村(2000～)で細々と行ってきた識字教育が引き金になり、アムナイ川流域の村々では教育に対する期待と要望が高まっている。シプヨやパクパク村周辺の村々(マエバ、ランラナン、ソアカン、カンルアン、カマンブガン、バルゴ等)からは頻繁に教育支援の陳情が来ている。わずか数年前まで教育に対して極めて疑心暗鬼だったことを考えると彼らの意識の変化にとまどいさえ感じるほどである。また、これまでの就学事業の成果により、協会の人的リソースも充実してきた。すでに大卒及び職業訓練校卒業者は6名(含2004年度卒業予定者)を数え、ハイスクールを修了し協会の各種職業訓練生として、また、ボランティア・スタッフとして働く者は11名を数える(含予定者)。AALPP(アムナイ川流域識字教育推進事業)は以上のニーズとリソースを基礎に計画されたものであり、今期はその第一段階としてランラナンとカンルアンにおける識字教育の開講、及びランラナンで簡易学校を普請する。

### 事業地の識字率

	世帯数	人口	名前だけなら	少し読める	識字率
パクパク村	15	67	12	25	37.3%
カンルアン村	28	97	11	0	0.0%
ソアカン村	15	56	6	0	0.0%
ランラナン村	29	101	7	1	1.0%
カマンブガン村	28	98	25	2	2.0%
平均	115	419	61	28	6.7%

注:

- 「名前だけなら」は署名のためになんとか自分の名前なら書けるという程度で、「読める」というレベルにはほど遠い。
- 「少し読める」は小学校低学年程度の記事であれば「読み書き」ができる、ということである。

- 調査は 2004 年 3 月。食の採取をはじめ、ムラから一時的に離れている者も多く、実際の世帯数、人口は 30% ~ 50% 増と考えてよい。
- パクパク村にて識字率が高いのは数年間の識字教育の成果による。

### 識字教育担当者給与

	給与	年合計	交通費手当	合計 (ペソ)	合計 (円)
パクパク村	5,000.00	65,000.00	1,920.00	66,920.00	133,840
カンルアン村	2,000.00	26,000.00	1,920.00	27,920.00	55,840
ランラナン村	2,000.00	26,000.00	1,920.00	27,920.00	55,840
カマンプガン村	0.00	0.00	1,920.00	1,920.00	3,840
合計				124,680.00	249,360

### 識字教育事業費

	児童数	月間給食費	講義月数	年間給食費	備考	施設整備費
パクパク村	20	4,266.67	10	42,666.67		8,000.00
カンルアン村	25	6,333.33	5	31,666.67		8,000.00
ランラナン村	30	7,600.00	10	76,000.00		3,000.00
カマンプガン村	30	1,600.00	10	16,000.00	米のみ	3,000.00
計 (ペソ)		19,800.00		166,333.33		22,000.00
計 (円)				332,667		44,000

## 2. マンニャン村コミュニティー開発事業

協会のめざすものは、「教育」を土台にした「人間の安全保障」の確立であり、土台となる「教育」の普及を支えるのがコミュニティー開発事業である。この事業では農業技術指導による「食の増産」「食の安全保障」をめざし、同時に農業を持続的に行うための「自然環境の保護、育成」を推進する。また長年、焼畑、狩猟採取を生業とし、半遊牧生活を営んできた彼らはコミュニティー意識が希薄であり、そのことが農業技術の習得を難しくし、彼らの社会的疎外を助長し、先祖永代の土地を失う大きな原因となってきた。彼らの良き文化を守り、同時に人権や安全保障を確立するためには、新しい「ムラづくり」を実現するための指導やエンパワーメントが重要である。

### 2-1 農業開発事業

対象となるのは AALPP (アムナイ川流域識字教育推進事業) 事業地と同じ 5 村であ

る。同じマンニャン、アラガン部族であっても村によって農業技術、村の連帯感、農業資本力（土地、農具、カラバオ）はまちまちであり、指導内容、方法を臨機応変に変えていかなければならない。以下は大雑把ではあるが現状と今期の事業方針である。

### 事業地別評価

	人口	農業技術	定住性	農業資本	今期の事業方針
パクパク	100	A	C	A	本格的な水稲技術の導入、合鴨農法
カンルアン	100	C	B	A	水稲作受け入れのための「むら作り」
ソアカン	60	A	B	C	中長期プラン作り、農資本の供給
カマンブガン	150	B	A	C	中長期プラン作り、農資本の供給
ランラナン	150	A	B	C	中長期プラン作り

農業技術

A：収量は低いですが、指導なしでも水稲可能。

B：指導のもとに、水稲がなんとか可能。

C：水稲の経験が非常に浅く、しばしば収穫が得られない。

定住性

A：年間を通してムラの住民数、顔ぶれがほとんど変わらない。

B：ムラとして安定感があるが、構成メンバーがしばしば変化。

C：ムラの人口が年間を通して著しく増減。しばしば離散の危機。

農資本

A：ムラに使用可能なカラバオや農具が数頭及び数機存在。

B：カラバオや農具を所有する世帯が2、3世帯ある。

C：ムラにカラバオや農具が全くない。

### 事業地別予算

集落名	調査費	農資本			コミュニティー・ファンド	合計
		カラバオ	農具	種子代		
パクパク	6,000.00	0.00	2,500.00	500.00	2,000.00	11,000.00
カンルアン	6,000.00	0.00	2,500.00	2,000.00	2,000.00	12,500.00
ソアカン	6,000.00	20,000.00	5,000.00	1,000.00	2,000.00	34,000.00
カマンブガン	6,000.00	20,000.00	5,000.00	1,000.00	2,000.00	34,000.00
ランラナン	6,000.00	10,000.00	5,000.00	500.00	2,000.00	23,500.00
合計（ペソ）	30,000.00	50,000.00	20,000.00	5,000.00	10,000.00	115,000.00
合計（円）						¥230,000

## 2-2 アムナイ川流域人間保障会議（Amnay Area Mangyan Conference on Human Security）構想

マンニャン族は半遊牧民族であるため、一集落が完全に定住することはなく、かつ集落の構成メンバーも流動的である。こうしたアモルファス状社会構造と、加速度を増して複雑化する外的世界（一般のフィリピン社会）との乖離が、彼らの生活をますます厳しいものにしていく。不法で暴力的な土地収奪、先祖永代地でますます横行する不法伐採は、彼ら先住民族間での不揃いな足並み、連帯感の脆弱さ、コミュニティー運営技術の欠如も大きな原因である。彼らの各種権利を守り、自然保護を推進するにはまず彼ら同胞内での強い紐帯、組織化は避けられない。アムナイ川流域人間保障会議（Amnay Area Mangyan Conference on Human Security）は、協会のガイドと指導のもと、事業地の集落を中心に組織し、住民が主体となって地域全体の発展をめざすものである。今期は対象地域の住民と協議を重ねながら会議の具体的運営方法、目的、組織作りについて模索する。

### 2-3 衛生環境整備事業

マンニャン社会における疾病は深刻な問題である。マラリア感染率は100%に近いものがあり、多くの場合母子感染している。また、衛生に関する基礎知識の欠如、栄養失調、医療サービスへのアクセスの困難さ（物理的、精神的）が重なり、山間部では地域により乳幼児死亡率が500（対1000人）を優に超えることもしばしばである。教育の普及（識字率の向上）はもっとも着実な対策であり、農業指導は健康改善に大きく貢献できるものの、「今ここにある深刻な状況」に即座に対応できるものではない。安全な飲料水の確保、結核を含む重篤な患者の対応は命にかかわり緊急を要する。今期は特に結核対策に力点を置いているが、教育を核にした中長期的な展望を持ちながらも、住民の“命”を守るサービスは極めて重要である。

#### 医療費

医薬品				
	薬品名	単価	個数	合計
対結核用	マイリンP フォルテ	1,000.00	30	30,000.00
	マイリン	720.00	45	32,400.00
	エサンブトル	450.00	21	9,450.00
	ストレプトマイシン	30.00	600	18,000.00
咳止め	カルボシステイン	700.00	1	700.00
ビタミン剤	マルチビタミン	145.00	50	7,250.00
その他の治療薬	各種抗生剤など			20,000.00
小計（ペソ）				97,800.00
交通費				

スタッフ	サンタクルス-アムナイ 4往復 ×4名 (事前調査)	640.00
	" 4往復 ×3名 (喀痰検査)	480.00
	" 16往復 ×3名 (衛生セミナー・予防接種)	1,920.00
	" 10往復 ×4名 (状況確認・最終調査)	1,600.00
	サンタクルス-マンブラオ 2往復 ×10回 (X線検査付添い)	800.00
	" 2往復 ×30回 (フォローアップ)	2,400.00
結核患者	サンタクルス-アムナイ 2往復 ×50名 (診察・検査等)	4,000.00
	サンタクルス-マンブラオ 2往復 ×10名 (X線検査)	800.00
	" 1往復 ×30回 (フォローアップ)	1,200.00
患者の家族	サンタクルス-アムナイ 2往復 ×100名 (付添い、患者1人つき2名)	8,000.00
小計(ペソ)		21,840.00
食費		
スタッフ	事前調査 (1泊2日: 4食×4名×2回、 2泊3日: 7食×4名×2回)	4,400.00
	喀痰検査 (2泊3日: 7食×3名×4回)	4,200.00
	状況確認 (1泊2日: 4食×3名×10回)	6,000.00
	最終調査 (1泊2日: 4食×4名×1回、 2泊3日: 7食×4名×1回)	2,200.00
患者	栄養補助 (P1,000×50名)	50,000.00
住民	セミナー用軽食、飲み物 (P2,000×3ヶ所×10回)	60,000.00
小計(ペソ)		126,800.00
雑費(ペソ)		
	参考資料費 (医学・保健の専門書等)	3,500.00
	資料作成費 (セミナー用資料、カラーマジック、模造紙等)	3,000.00
	マニラ出張費 (医薬品、参考資料等取得) P2,000×6回	12,000.00

小計（ペソ）	18,500.00
総経費（ペソ）	264,940.00
総経費(円)	¥529,880

### 3. マンニャン人間開発センター

センターは就学支援事業の受益者を中心に、マンニャン村コミュニティーに還元できる人材の育成が目的であると述べた。また、日本人ボランティアを募集し、協会事業運営に直接参加しながら将来広く開発事業に携わることのできる人材の育成を目指している。センターを通して事業は受益者・支援者循環型になり、より住民の主体性が向上するはずである。また、訓練や研究は事業を垂直的に深化させると同時に、地域全体に幅広く水平展開する機会を創出する。

#### 3-1 マンニャン人間開発センターの建設

センター主要建築物4棟（事務所、スタッフ寄宿舍、図書室、作業場）内、事務所とスタッフ寄宿舍、女子寄宿舍の建設を今期中に完了する予定。建設は、大工職業訓練の一環として、訓練生がプロの大工の指導を受けながらこれを行う。

#### 3-2 各種職業訓練

ハイスクールを卒業した協会元男子奨学生を対象に、農業のOJTで当初はじまった職業訓練も、昨年度は女子にも開講項目を加えますます充実してきた。開講訓練はどれも直接間接的に地域の産業に根ざしており、現実的なものであるが、第一の目的は経済面での成果よりも“自信”を取り戻し、リーダーシップを養い、同胞や地域社会に貢献できる人材を育てることである。また、パーマカルチャーや合鴨農法のように、未来のあるべき農業や文化を探りながら地域社会に新しいビジョンを提示すること（アドボカシー）である。

#### 開講訓練と内容

訓練項目	目的と内容	新規
漁業・漁船操業	小型漁船操業と通して漁業技術を獲得。干物などの加工品の製品化。	
鍛冶・溶接	鋤やまぐわなどの農具の修理、製作	

大工	マンニャン人間開発センターの建設を通して大工技術の習得。 簡単な積算能力の習得。	✓
養殖(パーマカルチャー)	パーマカルチャーの基礎概念の学習。魚介類の養殖技術の習得。 エコロジーの学習。	✓
合鴨農法	実験農場での農業実習。アヒルやアゾラ、在来種米の研究。	
ミシン裁縫	ミシンを使った簡単な衣服の製作。	
製菓・パン作り	パンや各種料理の製作、研究	

### 事業予算

新規事業以外は特別に予算を計上しない。十分な利益は未だでていないものの、漁船操業をはじめ、訓練の成果物で事業費をまかなうことができるからである。養殖事業の経費は以下のとおり。

### 養殖事業経費

詳 細	単価(ペソ)	量	単位	合計(peso)
150ペソ x 7人口 x 48日	50,400.00	1	式	50,400.00
一人1週間400ペソ x 7人勤務 x 工期8週間	22,400.00	2	式	22,400.00
シャベル、ツルハシ、鉋等	4,690.00	1	式	4,690.00
日当200ペソ、指導者1人	200.00	240	日	48,000.00
日当200ペソ、指導者2名	200.00	24	日	4,800.00
4人 x P100 x 240日	400.00	240	日	96,000.00
セメント、砂利、コンパネ等及び運搬費	26,045.00	1	式	26,045.00
ティラピア、ナマズ、エビ、ワタリガニ	1,650.00	1	式	1,650.00
竹材、ニッパ、釘等	12,730.00	1	式	12,730.00
suzuki x-4 125cc, p67,000	67,000.00	1	台	67,000.00
バイクによる資材&人員移動用にバイクに取り付ける	25,000.00	1	台	25,000.00
合計(ペソ)				358,715.00
合計(円)				¥717,430

### 3-3 日本人インターンシップと各種研究

2000年度より、協会では積極的に日本人ボランティアを事業に参加させてきた。この日本人インターンシップは広義の意味での開発(一般に指す開発途上国の経済開発では

ない)に携わることのできる人材を育成する場である。現地は貧困、少数民族問題、自然破壊問題、インフラ未整備、ガバナンスの欠如、グローバル化による地域経済の破壊、共産ゲリラなどなどさまざまな問題が錯綜しており、いわば世界問題の坩堝の観がある。インターン生はそうした環境の中で、協会事業の運営者として、またさまざまな研究を通して広く世界で活躍できる能力を育てる。

### インターン生活動・研究内容

活動/研究	内容
パーマカルチャー研究	実験農場におけるパーマカルチャーの実践と訓練生への指導。
合鴨農法研究	合鴨農法の現地普及のための在来米、アヒルの研究また、簡易で有益な農具の考案など。
先住民族の土地問題についての研究	1997年に施行されたIPRA(先住民族人権擁護法)で保証された先住民族先祖永代地の法的所有権に関する研究。
結核撲滅キャンペーン	マンニャン族の死因の第一原因と推測される結核撲滅のための各種セミナーの開催、医療サービスの提供。
学習指導	基礎学力のない奨学生を対象にドリル形式の算数指導、「ものの測量(はかりかた)」など実用的理科知識の教授。
マンニャン族単語帳作成	急激な変化にさらされているマンニャン族の文化保護の鍵となる言語の研究。単語帳などの作成を通して文化理解と保護をめざす。
エスノグラフィー作成	識字教室に通う子どもたちが作った絵本や年輩の“語り”などを集成。
参加型農村開発調査法	チェンバース氏の開発した調査法など、住民参加、主体型の開発、エンパワーメントの方法などを学ぶ。

## 4. 各種事業の運営方法について

三つの基本事業がお互いに相互補完の関係にあり、かつ受益者・支援者循環型であると述べた。訓練生は各種職業訓練を通して能力を開発する一方、ボランティアスタッフとしてマンニャン集落で農業をはじめとする各種指導に当たる。日本人インターン生は各

種運営主体として活躍しながら、自らの能力を開発する、といった具合である。従って協会の各種事業は「たれが何だけをする」といった固定的なものではなく、責任の所在を明確にしながらも、いくつものワークチームを形成し流動的に運営される。以下は主要なワークチームと組織図である。

### ワークチーム

業務内容	リーダー	補佐及び訓練生
会計及び販売 (Accountancy and Sales)	Reah B. Templanza	佐賀弘 Carmen Bernardo
就学支援事業 (Scholarship Program)	Arlene Bernardo Prescilla Rinangyan	Emily Rinangyan 佐賀弘
識字教育事業 (Literacy Program)	Hermie M. Panagsagan	瀧村沙織 Lenie Alafriz Louisa Cawayan
農業開発事業 (Agricultural Support Program)	Joseph Templanza Fernando Tuscano	川島寛之 Fernando Tuscano Larry Viguilla Wilfredo Bernardo Greg Casison
衛生環境整備事業 (Health Promotion Project)	国金さつき	Richelle Pacifico Emily Rinangyan 佐賀弘
男子各種職業訓練 (Men's Vocational Trainings)	Fernando Tuscano Joseph Templanza	Pedro Rinangyan Carlos Bernardo Joeffrey Rinangyan Greg Casison Wilfredo Bernardo Larry Viguilla
女子各種職業訓練 (Women's Vocational Trainings)	瀧村沙織	Prescilla Rinangyan Emily Rinangyan Arlene Bernardo Carmen Bernardo Richelle Pacifico

## 組織図

現地事務局長(General Manager) H. Kawashima  
理事会(Board)仮 H. Kawashima, F. Tuscano, J. Templanza, H. Panagsagan  
会計担当(Accountant) R. Templanza

就学支援事業(Schooling Support Project)  
奨学金事業(Scholarship Program) A. Bernardo  
識字教育事業(Literacy Program) H. Panagsagan

マンニャン農村開発事業(Mangyan Rural Development Project)  
農業開発事業(Agricultural Support Program) J. Templanza  
衛生環境整備事業(Health Promotion Project) H. Saga

マンニャン人間開発センター(Mangyan Human Development Center)  
各種職業訓練(Vocational Trainings) F. Tuscano  
鍛冶溶接訓練(Smithery & Welding Training)  
大工訓練(Carpentry Training)  
漁業訓練(Fishing Boat Operation)  
パーマカルチャー農場経営訓練(Permaculture Training)  
水産養殖訓練(Aquaculture Training)  
洋裁訓練(Dress Making Training)  
製菓製造訓練(Patisserie Training)

日本人ボランティア・インターンシップ(Japanese Volunteer Internship)